

研究領域 ②自律分散型地域構造のための研究 研究題目 気候変動脆弱地域における災害リスク評価と 災害免疫力向上に関する研究

研究グループメンバー

川村 志麻 もの創造系領域 教授（代表）、木村 克俊 もの創造系領域 教授、木幡 行宏 もの創造系領域 教授
中津川 誠 もの創造系領域 教授

「北海道MONOづくりビジョン2060」を具体化する研究概要

本研究では、石狩低地東縁断層帯が南北に存在し、有珠山や樽前山などの火山活動が活発化している地域、すなわち、札幌を代表とする主要都市ならびに千歳国際空港や苫小牧港、室蘭港などの国際拠点港湾等の重要施設がある中央エリアについて、災害危険度評価法提案のための基礎情報を収集するとともに、それに関わる対策法を提案することを目的とする。

第一段階として、平成30年北海道胆振東部地震による大規模斜面崩壊が発生した胆振地域を対象に研究を進め、①水工水文学分野、地盤工学分野、海岸工学分野から見たそれぞれの災害危険度（現在の危険度）を把握し、②それらの誘因となる因子（現在までの自然外力の評価）を解明・把握し、さらには③今後予想される自然外力のシナリオに対する災害リスクの総合的な評価手法の確立ならびに対策（将来の危険度予測と対策法）を検討する。



得られた結果は、海岸域を持ち、かつ火山活動が活発であり、さらには豪雨災害を受けやすい地域のモデルケースとして評価可能であり、他地域にも展開できる。また、自治体の地域の防災計画を議論する上でもその重要性が指摘・要望されていることから、避難方策の提案やさらには都市計画の基礎資料の提示になり得る。



本研究のイメージ

研究対象地域： 災害リスクの高い中央エリアを対象
（今回は主に胆振地域を対象）

